

「宝塚音楽回廊」 ～まちが音楽であられる一日～

○宝塚音楽回廊実行委員会 事務局長 射延 広和
(財)宝塚市文化振興財団 係長 三戸 俊徳
宝塚市観光振興課 係長 益田 裕文

1. 活動方針・目的

文化力による「まちの元気」創出のために、「音楽のまち宝塚」のシンボルイベントとして『宝塚音楽回廊』を継続的に開催することにより、活力のあるまちづくりをめざしています。

2004年(平成16年)に、阪神・淡路大震災10周年を機に始まったこのイベントは、震災復興に対して寄せられた数多くの支援に感謝するとともに、共に生きることの素晴らしさを、音楽を媒介として伝えていきたいと願っています。

この取組は、「芸術文化都市・宝塚」のブランドイメージづくりにも、大きく寄与するものと考えます。

2. 活動内容

毎年11月半ばごろの一日、宝塚市内各所のホール、ライブハウス、ホテル、飲食店、街角など20個所を超える会場で一斉に、多様なジャンルのライブ演奏が、同時進行的に展開されるイベントです。

宝塚市内に在住のミュージシャンを中心として、ジャズ、クラシック、シャンソン、ブルースなど、様々なジャンルの音楽でまちが包まれる一日を演出し、市街地の活性化をめざします。

〈開催実績〉

第1回	2004年(平成16年)11月23日
第2回	2005年(平成17年)11月12日
第3回	2006年(平成18年)11月11日

3. 今後の課題等

①より魅力的なプログラム構成

これまでの3回は、毎回5～6千人の集客を記録しているが、さらに動員数を増加させるためには、より魅力的なプログラム構成の工夫が必要となります。

②広報能力の強化

より広域的な集客を確保するためには、広報能力の強化・効果的な広報の実施が求められます。

③近隣商業者・公共交通機関等との連携

地域全体の活性化という視点からは、近隣商業者・公共交通機関等との、よりいっそうの連携が必要となります。

④音楽のショーケース的展開の模索

このイベントがショーケースとなり、ミュージシャンとプロモーターやコンシューマーとのマッチングが可能となり、「芸術文化都市・宝塚」らしいビジネスチャンスが創出できるような方向性を模索したいと考えます。



宝塚音楽回廊

～まちが音楽であふれる一日～

発表者 宝塚音楽回廊実行委員会
事務局長 射延 広和

『宝塚音楽回廊』とは？

♪音楽のまち宝塚のシンボルイベント

2004年から毎年11月に開催

♪秋の一日、まちが音楽一色に

市内4駅周辺エリア
〈宝塚・宝塚南口・逆瀬川・清荒神〉
24会場 約90ステージ
出演者数 70グループ 220名
参加ボランティア 120名
のべ観客動員 6,500名
(いずれも2006年)

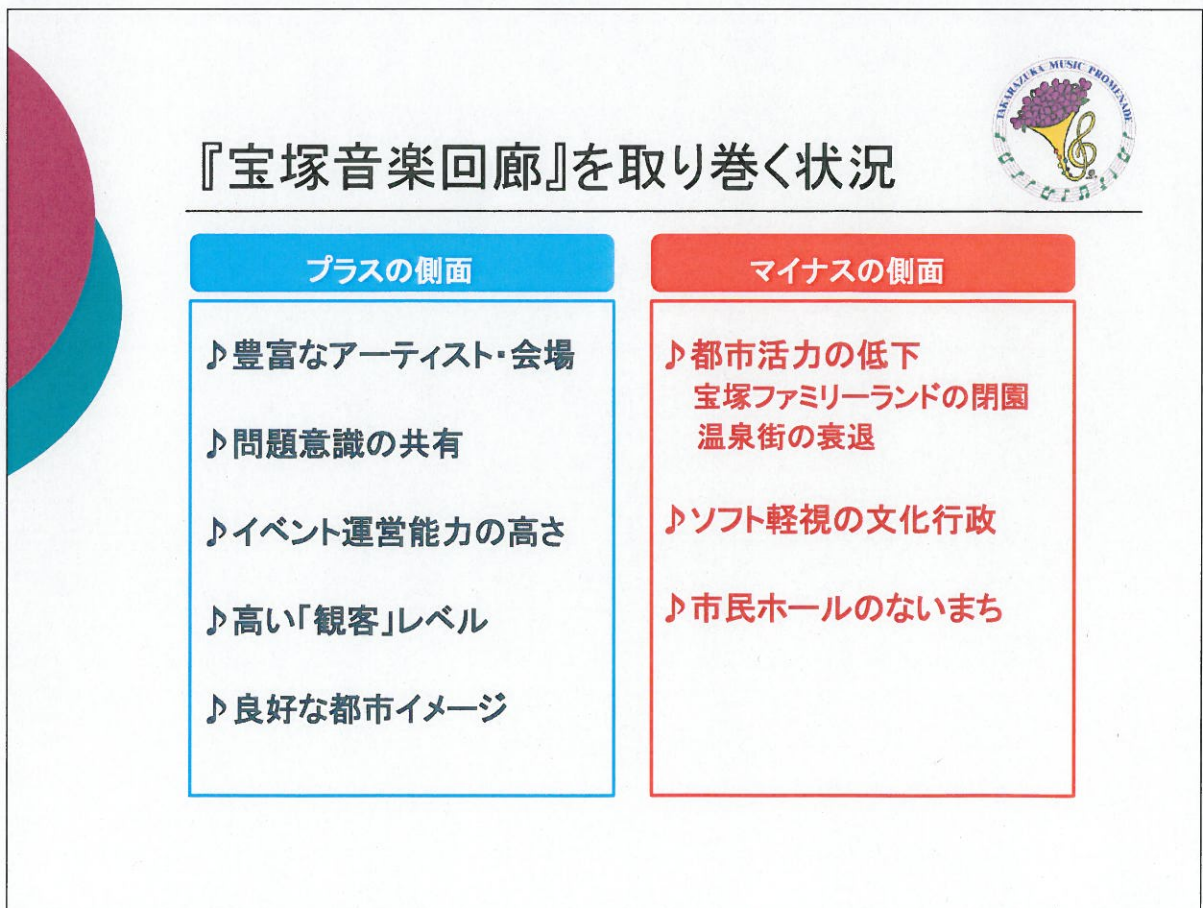
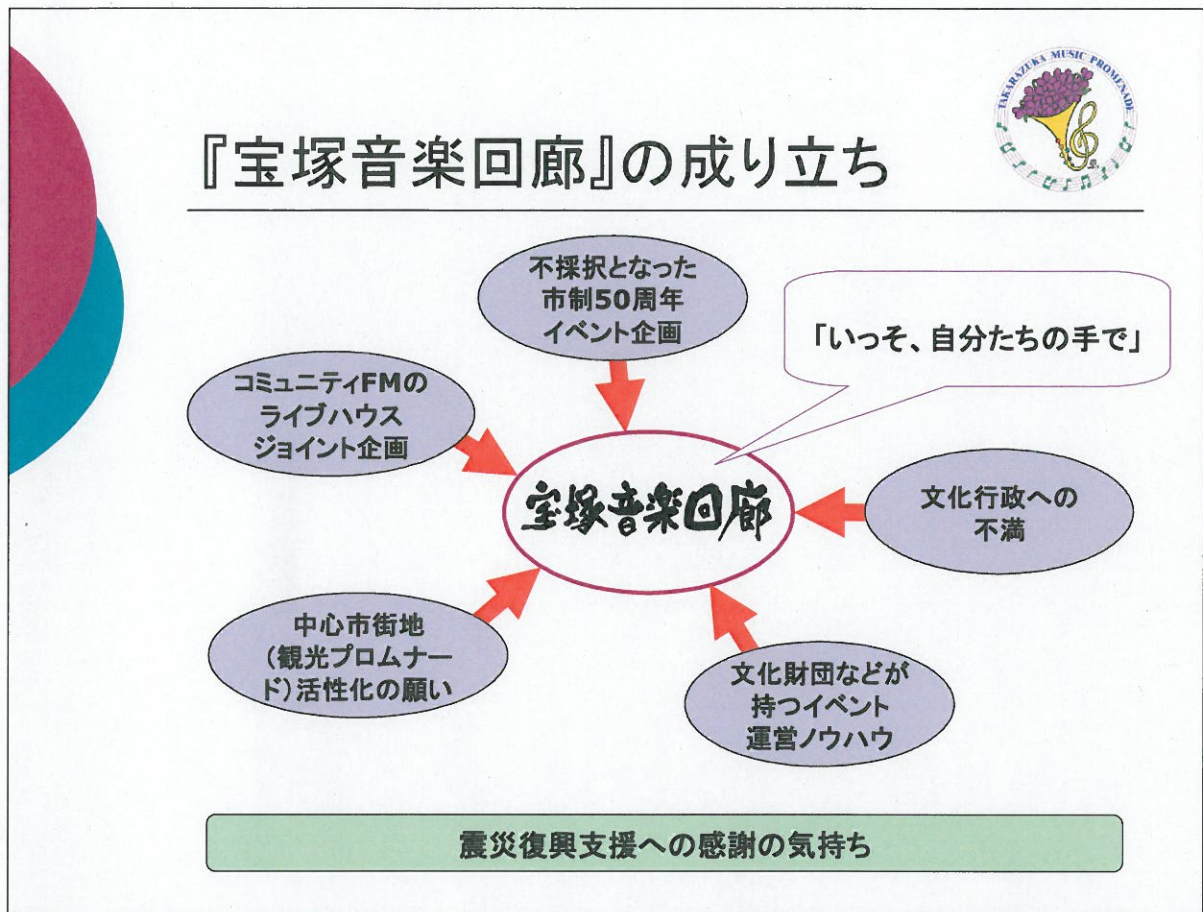
♪多彩な音楽ジャンルが一同に集結

ジャズ・クラシック・シャンソン・ポップス・
ブルーグラス・ミュージカル・フラメンコ...

♪バラエティに富む会場の魅力

ホール・ライブハウス・教会・ホテル・ギャラリー・
レストラン・ラーメン店・住宅展示場・駅前広場...







『宝塚音楽回廊』の特色

♪ マイナスをプラスに転化

マイナスをバネに立ち上がった企画

♪ 本業の課題をプライベートの場で解決

職務上の立場をこえて参加したメンバー

♪ カリスマのいない組織

問題意識の共有による参加者の一体感

♪ 行政の支援に頼らない運営

行政の枠にしばられない自由度の高さ

♪ 会場の多様性と協力関係

多様な施設が会場提供に協力



まちはどう変わったか？

♪ まちに与えたインパクトの大きさ

観客がまちに出ることで引き起こした波紋

<逆瀬川駅前の再開発ビル「アピアさかせがわ」の事例>

来店者数・売上ともに前年比3～4割アップ(2005年)

♪ 人のネットワーク

「まちづくり」と「文化」に関心を持つ人たちがつながる

♪ 情報のネットワーク

宝塚在住のアーティスト情報、会場情報などが集積

♪ さまざまな活動が派生

宝塚シャンソン化計画

青少年による「OUR LIVE」

「宝塚エンターテイメントフェスティバル」



将来像と課題

♪めざすもの

芸術文化都市・宝塚
文化力による「まちの元気」創出
市民の文化度向上と経済活性化

♪課題

運営基盤(ヒト・モノ・カネ)の確保